

平成18年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

| | | | |
|--------------|------------|-------|--------|
| 観光客数〔推計実人数〕: | 50,369千人 | (対前年比 | 0.5%) |
| 日帰り: | 46,038千人 | (対前年比 | 0.0%) |
| 宿泊: | 4,330千人 | (対前年比 | 5.5%) |
| 観光消費額〔推計〕: | 281,003百万円 | (対前年比 | 1.8%) |
| 日帰り: | 169,968百万円 | (対前年比 | +0.1%) |
| 宿泊: | 111,035百万円 | (対前年比 | 4.6%) |

1 観光客数

全体の動向

平成18年の観光入り込み客数は、50,369千人(対前年比 0.5%)となった。

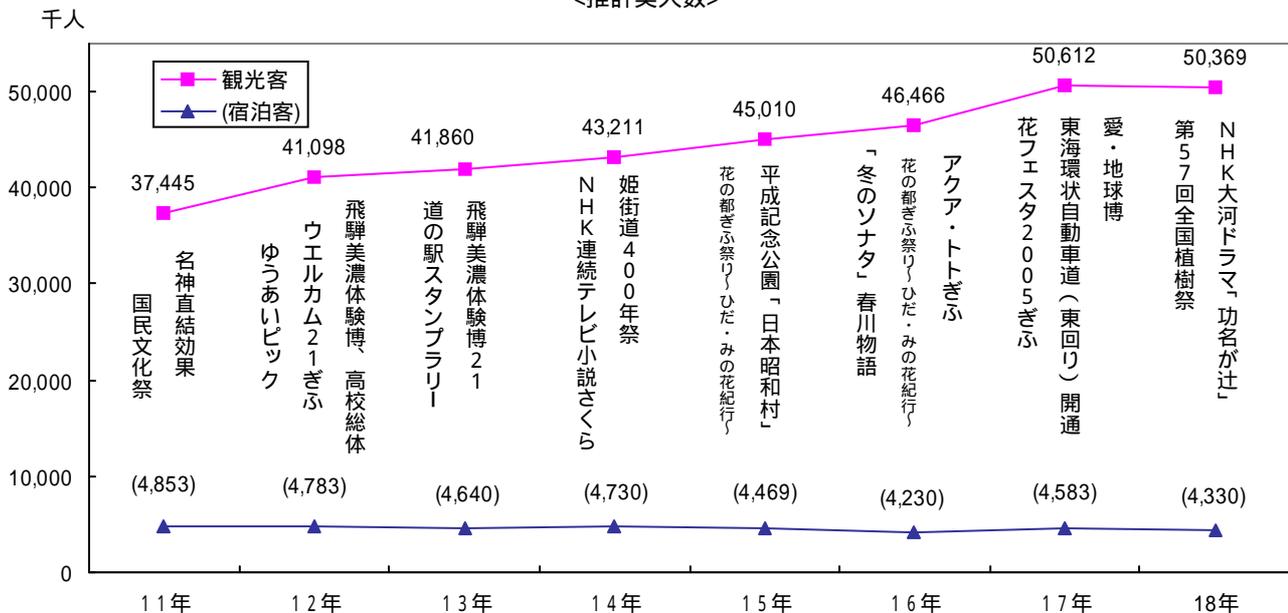
これは、愛・地球博の開催による好影響を受けた平成17年との比較では微減したが、減少幅は0.5%に留まり、昨年と同様に年間5,000万人台の水準となった。

うち宿泊客数は、愛・地球博の反動が大きかった岐阜圏域を中心に、県全体で対前年比 5.5%減少の4,330千人であったが、博覧会前年のH16との比較では2.4%の増加であり、博覧会の開催を契機に宿泊を伴う観光旅行の増加がみられた。外国人宿泊客数についても、昨年と比べ全体では減少したが、飛騨圏域では122千人と増加が続き、ビジットジャパンキャンペーンが始まった平成15年と比べ3倍以上と順調に推移している。

なお、県内集客数のトップは、昨年に続き河川環境楽園(各務原市)の4,160千人であり、県内にある「道の駅」についても、全体で約1,000万人(年間延べ観光客数)の集客となった。

年別観光客数の推移

<推計実人数>



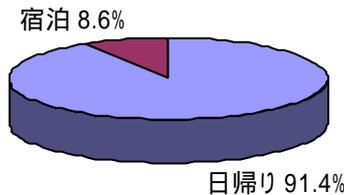
(1) 日帰り・宿泊別観光客数

平成18年の観光客数は50,369千人であった。

これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は46,038千人、宿泊客は4,330千人と日帰り客が全体の91.4%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が0.5ポイント増加した(図1、表-1)。

圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比97.5%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。一方で飛騨圏域は、日帰り客67.7%、宿泊客32.3%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客4,330千人のうち2,255千人と全体の52.1%を占めている。

図1

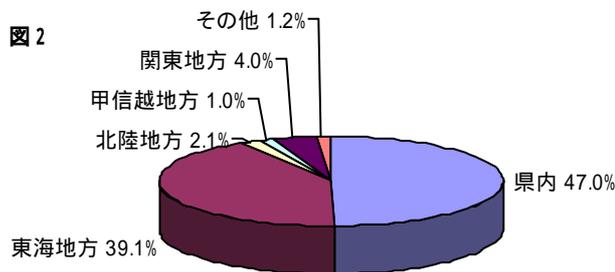


(2) 居住地別観光客数

居住地別にみると、県全体では県内客は23,653千人(構成比47.0%)、県外客は26,716千人(構成比53.0%)で、特に飛騨圏域は県外客の割合が76%と高い。

県全体では、県外客のうち7割以上が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。また、東海地方からの観光客の割合が特に多いのは、西濃圏域および東濃圏域である(図2、表-2)。

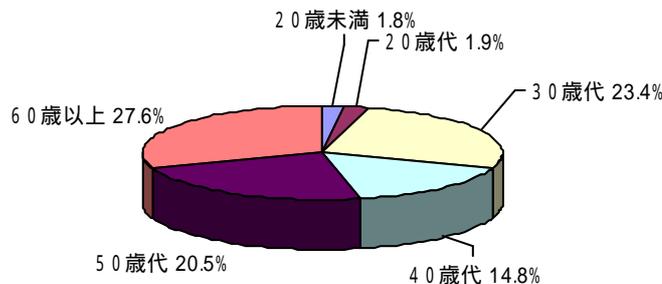
図2



(3) 男女別・年齢別観光客数

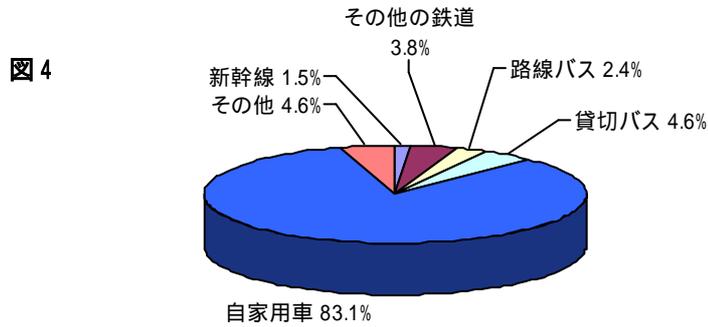
男女別で見ると、男性26,031千人(構成比51.7%)、女性24,337千人(構成比48.3%)と男性が若干多い。年齢別では、60歳以上が最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている(図3、表-3)。

図3



(4) 利用交通機関別観光客数

利用交通機関別にみると、自家用車の割合が8割以上を占めている(図4、表-4)。一方で、飛騨圏域は自家用車以外の鉄道やバスの利用が27.7%ある。



(5) 同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」と「4～5人」で全体の約8割を占めており、少人数の観光形態の傾向に変化はない(表-5)。

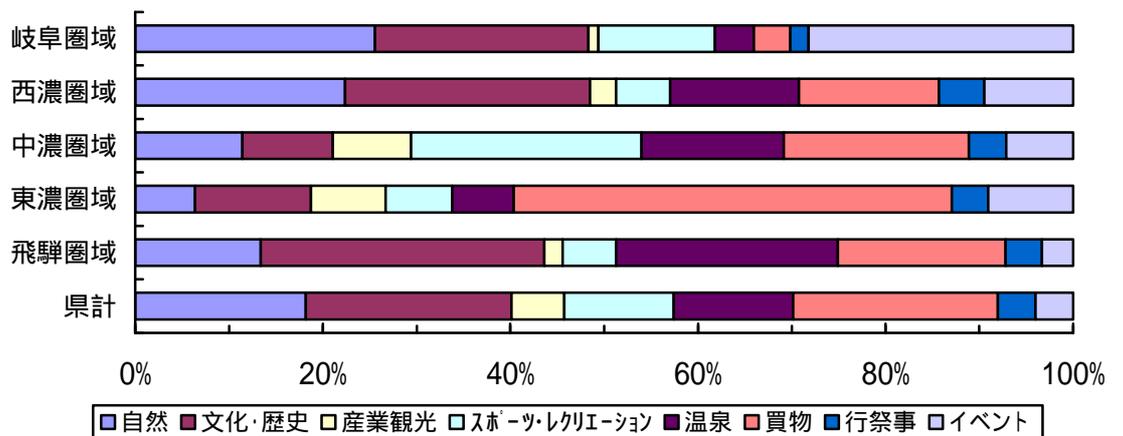
同行者別に見ると、約6割が「家族」で、以下「友人・知人」、「自分ひとり」と続いており、「団体旅行」の割合は低い。(表-6)

(6) 観光地分類別観光客数

観光地分類別にみると、「文化・歴史」と「買物」で全体の4割近くを占め、以下「自然」、「イベント」、「温泉」、「スポーツ・レクリエーション」、「産業観光」、「行祭事」と続く。

圏域別で見ると、岐阜圏域は「自然」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い(図5、表-7)。

図5



圏域の動向

< 観光客実人数 (推計) >

(単位: 千人、%)

| | 日帰り客数 | 宿泊客数 | 観光客数(合計) | 対前年比 |
|------|--------|-------|----------|------|
| 岐阜圏域 | 11,239 | 793 | 12,032 | 1.5 |
| 西濃圏域 | 11,217 | 288 | 11,505 | +2.2 |
| 中濃圏域 | 8,894 | 531 | 9,425 | 2.6 |
| 東濃圏域 | 9,965 | 463 | 10,428 | 0.5 |
| 飛騨圏域 | 4,724 | 2,255 | 6,978 | 0.0 |
| 合計 | 46,038 | 4,330 | 50,369 | 0.5 |

各圏域および県計の観光客数は、ともに実人数(1人の観光客が圏域内または県内の複数の観光地点を訪れても、圏域内または県内で2泊以上滞在しても、観光客、宿泊客はそれぞれ1人と数える。)を推計したものである。

$$(\text{観光客実人数}) = (\text{観光客延べ人数}) / (\text{平均訪問地点数(単位:箇所)})$$

岐阜圏域

- 観光客数は12,032千人(対前年比 1.5%)と昨年に比べ185千人減少した。日帰り客数は前年とほぼ同水準を維持したが、宿泊客数は、H17に開催された愛・地球博の反動により、793千人(対前年比 16.8%)と大幅に減少した。もっとも、宿泊客数は、同博覧会の開催前年のH16との比較では3.0%の増加となった。
- 「岐阜県世界淡水魚園水族館(アクア・トトぎふ)」(各務原市)は、H16からの開園インパクトが薄れ、407千人(対前年比 28.9%)と大幅に減少したが、「河川環境楽園」全体として、県内最多の4,161千人を集めた。

西濃圏域

- 観光客数は11,505千人(対前年比 +2.2%)と昨年に比べ251千人増加した。
- 観光地点別では、大垣市で合併による新市誕生記念に伴うイベントの開催、国営木曽三川公園(海津市) 養老公園(養老町) 道の駅(海津市・揖斐川町)で入出を集めたが、全体的には前年並みに推移。
- 揖斐地区のスキー場では、暖冬により営業に至らない施設も出るなど、入り込み客数が減少した。
- 西濃圏域は他圏域と比べると、日帰り客の占める割合が最も多い(97.5%)ことも特徴である。(表-1)

中濃圏域

- 観光客数は9,425千人(対前年比 2.6%)と昨年に比べ254千人減少した。
- 観光地点別では、花フェスタ記念公園(可児市)は、昨年開催された大規模イベント「花フェスタ2005ぎふ」の反動が大きく471千人(対前年比 69.0%)と例年並み水準に落ち着いた。「平成記念公園『日本昭和村』」(美濃加茂市)はH15からの開園インパクトの効果が薄れ、3年連続して減少(対前年比 18.5%)。奥美濃地区(郡上市)のスキー場では、暖冬による雪不足の影響もあり、入り込み客数が減少。(対前年比 7.1%)
- 新規施設のオープン効果として、太田宿中山道会館(美濃加茂市) 天然温泉施設(可児市)が挙げられる。

東濃圏域

- 観光客数は10,428千人(対前年比 0.5%)と昨年に比べ54千人の微減であり、うち宿泊客数はH17年の愛・地球博の反動もあり、463千人(対前年比 9.6%)と減少幅が大きかった。
- 日帰り客数はほぼ前年並みに推移したが、観光地点別に見ると、大幅な減少地点として「セラミックパークMINO(岐阜県現代陶芸美術館)」(多治見市)が挙げられ、H17開催の国際陶磁器フェスティバルからの反動により、対前年で4割以上減少した。なお、新規施設のオープン効果としては、健康増進施設「バーデンパークSOGI」(土岐市)や「クリスタルパーク恵那スケート場」(恵那市)が挙げられる。

・東濃圏域は、他圏域と比べると、居住地別観光客では、県外客のうち東海地方からの割合が特に高いのが特徴である。(84.6%) (表 - 2)

飛騨圏域

- ・観光客数は6,978千人(対前年比 0.0%)と昨年と同水準であった。うち、宿泊客数は、2,255千人(対前年比 1.6%)と微減であったが、有名観光地の元に積極的な海外誘客活動を展開した高山市や白川村の外国人宿泊客については、大幅な増加が見られた。
- ・観光地点別に見ると、高山市では曜日の関係から「高山祭」で若干減少したものの、古い町並みなどの「高山地域」や開花が長期間に及んだ「荘川桜」で客数が伸びた。飛騨市では「飛騨古川 古い町並み」を始め、イベント開催に伴う来場者が増加した「流葉温泉ニュートリノ」などで増加が目立った。下呂温泉(下呂市)は概ね前年並み。
- ・飛騨圏域は、他圏域と比べると、観光客数における宿泊客の割合が3割以上と多く(県全体:約1割)(表 - 1)、県外客の割合も7割以上と多い(県全体:約5割)(表 - 2)といった特徴があり、鉄道・バスの利用(表 - 4)や、団体旅行の割合も高い(表 - 6)。

<参考:圏域別延べ宿泊客数の年別推移>

(単位:千人)

| | 平成14年 | 平成15年 | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 |
|------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|
| 岐阜圏域 | 1,109 (24) | 1,046 (27) | 1,024 (33) | 1,275 (48) | 1,056 (35) |
| 西濃圏域 | 318 (5) | 322 (6) | 299 (6) | 426 (29) | 445 (23) |
| 中濃圏域 | 796 (5) | 760 (5) | 757 (6) | 804 (9) | 775 (5) |
| 東濃圏域 | 599 (2) | 633 (2) | 603 (2) | 662 (6) | 598 (2) |
| 飛騨圏域 | 4,294 (39) | 3,970 (37) | 3,679 (47) | 3,690 (104) | 3,616 (122) |
| 県計 | 7,116 (75) | 6,730 (77) | 6,361 (93) | 6,856 (195) | 6,490 (188) |

表11(延べ宿泊客数)を年別にまとめたものである。1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所まで宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える。
また、下段のカッコ内は外国人の延べ宿泊客数である(内数)。

外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数について、平成17年に開催された「愛・地球博」の反動もあり、全体では187,697人(対前年比 3.8%)と平成12年以降初めて減少したが、飛騨圏域を中心に高山市では約2万人の増加となった。

2 観光消費額

平成18年の観光消費額の総額は281,003百万円(対前年比 1.8%)で、そのうち日帰り客分は169,968百万円(対前年比+0.1%)、宿泊客分は111,035百万円(対前年比 4.6%)であった。

これを1人当たりの平均消費額で見ると、日帰り客は3,692円(対前年比+4.2%)、宿泊客は25,642円(対前年比 1.0%)であり、結果的に県外の日帰り客の動向が活発であったため、日帰り平均消費額は増加したが、宿泊客数自体の減少が全体的な消費額の減少につながったといえる。

3 経済波及効果（推計）

平成18年の生産誘発額は393,940百万円（対前年比 4.0%）で、就業誘発効果は44,004人（対前年比 1.8%）となった。

<参考>美濃加茂市の製造品出荷額等 408,622 百万円（H17 県工業統計調査）
瑞浪市の人口 42,066 人（H17.10.1 推計人口）

4 「道の駅」の観光客数

平成18年末現在、県内に「道の駅」は48ヶ所（対前年3ヶ所増）あり、うち観光客数（利用者数）を把握している「道の駅」は42ヶ所。これら42ヶ所の観光客数の合計は、10,233千人であった。

集客数を前年と比較すると、42ヶ所中、増加20ヶ所、減少19ヶ所、同数1ヶ所、新設2ヶ所であり、新設・比較不能を除く40ヶ所の利用者数では、10,112千人（対前年比+8.5%）となり岐阜を除く各圏域では、集客数が前年を上回った。

【参考】調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

1. 調査期間

平成18年1月1日から平成18年12月31日まで

2. 調査対象

(1) 観光地点

観光地点の定義

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

観光地点の分類

観光地点の分類は以下の区分による。

- ・「自然」...優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地(山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形)。
- ・「文化・歴史」...文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設(城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物)。
- ・「産業観光」...広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点(観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設)。
- ・「スポーツ・レクリエーション」...管理者が常駐している施設。

ただし、小規模の施設、地元利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定(ゴルフ場、スキー場、テニスコート、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、自然歩道・自然研究路、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツ・レクリエーション施設)。

- ・「温泉」...温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域(温泉、その他入浴施設)。
- ・「買物」...管理者が常駐している施設。
ただし、小規模の施設、地元の利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象になっているものに限定(道の駅、複合的ショッピング施設、ショッピング街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン)。
- ・「行祭事」...地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる大規模な行祭事(行祭事、郷土芸能、地域風俗)。
- ・「イベント」...常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる大規模なイベント(博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会)。

(2) 宿泊施設

宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

3. 調査実施機関

県、市町村(平成18年末時点の市町村の別による)